



水防演習などの概要説明を聞く参加者 = 大垣市川並地区センター（同市古宮町）

『揖斐川河川敷などで水防演習！』 5月の開催控え、地元説明会・大垣

● 本年5月に予定されている「揖斐川連合総合水防演習・広域連携防災訓練」を前に、大垣市と国土交通省木曾川上流河川事務所は3月2日（月）、揖斐川沿川の近隣自治会を対象に説明会を開いた。同市川並地区センターで開いた説明会に、地元連合自治会長や各自治会長ら12人が出席。同事務所の岩田孝治・水防企画係長が演習概要を説明し、訓練参加への協力を要請した。

次いで、細野貴司・揖斐川第二出張所長が、今回のメイン会場となる大垣市今福地先の揖斐川右岸堤防について言及し、「この場所は明治29年の大洪水によって2度にわたり破堤し、大垣輪中全体が浸水被害を被った実績があり、今も堤防上に堤防決壊碑が祀られている」と説明し、この地で水防演習を開催することの意義を強調した。また、揖斐川沿川の地名が、過去の洪水や自噴水など「水」に由来したものが多くを紹介した上で、「その土地が持っている潜在的な危険性を認識し、災害に強いまちづくりや、自主防災活動に活かして欲しい」と訴え、参加者らは地元の話題に興味を示し、真剣な表情で聞き入っていた。

演習・訓練のテーマは「ひとりの力が守る力に」。揖斐川流域で洪水被害、揖斐川町で大規模土砂災害被害、名古屋港で高潮被害を想定し、防災関係機関と連携した複合型災害に対する各種訓練を展開する計画。メイン会場では住民参加による避難訓練や、消防団による土のうを使った水防工法訓練などに取り組み、堤防決壊時の荒締め切りや排水ポンプ車による排水作業などの訓練も行う予定。



明治29年9月洪水による破堤（大垣市今福地先）大垣市立図書館所蔵

※7月洪水の後の災害復旧工事中に、9月洪水が再来し、工事現場の設備、木材が壊れ、また一面水溜りの町の様子が見受けられる。



堤防決壊の碑（大垣市今福地先）